

平成 25 年度（第 2 期）

事業報告書

（自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 3 月 31 日）

1. 事業概要
2. 助成事業
3. 電子書籍制作事業（助成受贈者の記録）
4. その他の事業

平成 25 年度（第 2 期）事業報告書

1. 事業概要

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団は、平成 25 年 4 月 1 日に公益財団法人として 2 年目を迎え、本財団の公益目的事業である日本と韓国に関する文化・芸術・歴史・社会・スポーツ等の分野における学術研究、創作活動、啓蒙活動、実践活動への助成。そのほか日本と韓国に関する国際交流に対する助成を行なうことになっています。

平成 25 年 3 月 14 日（木）に開かれた理事会でご承認いただきました第 2 期事業計画に基づいて、第 2 期（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）の助成事業を実施いたしました。

2. 助成事業

(1) 平成 25 年度助成申請の応募受付

今年度から郵送による「申請書」の受付のほかに、本財団ホームページから申請できる「電子申請」を併用しました。

平成 25 年 7 月 1 日から助成申請書の募集を始め、9 月 30 日に公募を締め切りました。その結果、助成申請総数は過去最多の 115 件を記録しました。

今年度は選考委員と協議をしながら、申請書を 5 枚から 3 枚に大幅に縮小した結果、短いフォーマットになった分、申請者が何をしたいのか？が本質的に問われる申請書になりました。選考委員の伊藤亞人氏（東京大学名誉教授）と鄭大均氏（首都大学東京特任教授）に申請書を見ていただき、常識的な判断で本財団の助成申請のレベルに達していないと思われる申請書を落とす事前審査を行ないました。

その後、平成 25 年 11 月 10 日（日）に書面による第 1 回選考委員会を実施し、6 名の選考委員によって討議を重ねて選定し、面接が必要と思われた申請者を 12 月 1 日（日）に呼んで、第 2 回選考委員会を開催しました。

助成申請総数 115 件を厳正かつ慎重に審査した結果、2 団体、7 個人、9 件の助成対象者が選ばれました。一般助成の助成金額は 1178 万 2000 円。「韓昌祐特別助成」にはニューイングランド音楽院に留学中の金潤妃さんに \$ 34, 095 (349 万 3245 円) に授与され、平成 25 年度の助成総額は 1527 万 5245 円になりました。平成 25 年度の助成金受贈者は、以下の通りです。

平成 25 年度助成金受贈者一覧

【一般助成】

受理番号 016	東北大学大学院経済学研究科准教授 松谷基和	200 万円
	「押川方義の朝鮮観ならびに朝鮮政策関与の実相」	
023	生野オモニハッキョ 代表 金野昌子	100 万円
	「生野オモニハッキョー在日韓国・朝鮮人女性の生涯学習支援」	
042	九州産業大学芸術学部教授 渡邊雄二	88 万 2000 円
	「近代以前、日本における韓国書画の受容の様相について」	
057	(公財) かながわ国際交流財団 代表 福原義春	50 万円
	第 6 回 21 世紀ミュージアム・サミット「ミュージアムが社会を変える」	
060	早稲田大学国際教養学部教授 布袋敏博	200 万円
	「朝鮮人留学生に関する総合的研究」	
066	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程 李仙喜	180 万円
	「韓国書誌学におけるハングル活字及び異本対照研究の体系化」	
083	東國大學校教授・東國大日本學研究所所長 金煥基	200 万円
	「コリアンディアスポラ文学研究—北米のコリアン文学と在日コリアン文学の比較を中心に」	
112	島根大学法文学部准教授 平郡達哉	100 万円
	「韓半島出土磨製石剣の集成的研究」	
114	滋賀県立大学人間文化学部非常勤講師 安田純也	60 万円
	「高麗・朝鮮時代の社会と仏教—仏腹蔵遺物を手がかりとして」	
	小計	1178 万 2000 円

【韓昌祐特別助成】

受理番号 026 ニューイングランド音楽院 金潤妃 \$ 34, 095

「クラシック音楽でつなぐ韓国・日本・米国の国際親善」

小計 349万3245円

◇平成25年度の助成金

総額 1527万5245円

(2) 公募の方法について

- イ 東洋経済日報、統一日報の新聞広告で公募を告知しました。
- ロ 朝日新聞出版のニュースサイト dot で、7月の最終週のセカンド・レクタングルに公募広告をアップし、8月第1週から4週にかけて1行広告を掲載しました。
- ハ 日韓研究所、コリアセンター、韓国語学科、朝鮮語学科、アジア研究所などが設置されている各大学、研究機関に、本財団のパンフレットとポスターを送付し公募を告知しました。
- ニ 在日本大韓民国民団の各地方本部に、本財団のパンフレットとポスターを送付し公募を告知しました。
- ホ そのほか本財団のホームページにおいて公募を告知しました。

3. 財団誌制作事業（助成受贈者の記録）

（1）財団誌『青鶴』発刊の概要

旧財団法人の（財）韓哲文化財団の「寄付行為」に、助成事業のほかに
論文集の刊行が事業として掲げてありました。論文集の刊行は、事業の柱の
一つでもあり、財団法人として順守すべき行為でありました。

そこで「寄付行為」に準じた事業を遂行する目的と、過去の助成金受贈者
の成長と助成金の使途に関する調査を目的に、平成 21 年度から財団誌『青
鶴』を制作してきました。助成証書授与式から 3 年後の助成受贈者を取材、
調査をして財団法人の活動の記録としてまとめてきました。

（2）平成 25 年度電子書籍『青鶴 5』の報告

平成 25 年度は、これまで制作してきた紙媒体の財団誌『青鶴』を電子書籍
に切り換え、平成 22 年度の助成金受贈者 3 団体、8 個人を取材、調査の対
象としました。7 月上旬に編集会議を開き、6 名のライター、2 名のカメラ
マン、デザイナー 1 名、編集者 1 名、校閲 1 名のほかに電子書籍化する（株）
ページワンが加わり、電子書籍『青鶴 5』の制作事業を始めました。
編集会議から、『青鶴 5』の取材・執筆、「青鶴学術論集」のための論文の所
収、最終的な校閲、PDF によるアップに至るまで 7 ヶ月を要しました。
平成 25 年度電子書籍『青鶴 5』で検証した助成金受贈者は、以下の通り。

長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室
中央大学総合政策学部兼任講師
京都大学大学院人間・環境学研究科教授
法政大学国際文化学部教授
NPO 法人日韓次世代交流映画祭代表
誌人 尹東柱を記念する立教の会代表
モスクワ音楽院大学院・ピアニスト
日韓演劇交流センター専門委員・俳優
韓国・朝鮮文化財返還問題連絡会議副代表
ソヘグム演奏家
日本女子体育大学体育学部運動科学科

古澤義久
宣 元錫
西垣安比古
川村湊
下川正晴
楊原泰子
姜 杏理
青木鉄仁
有光 健
河 明樹
安 栞

4. その他の事業

(1) 助成証書授与式

毎年、3月14日に都内ホテルで開催されてきた本財団の助成金授与式は、助成受贈者のプレゼンテーションの場でもあり、また駐日本国大韓民国大使館・韓国文化院文化院長をはじめ日韓親善協会中央会会長、在日本大韓民国民団中央本部団長、在日世界韓人商工人連合会会長、在日本韓国人連合会会長などが列席し、日韓両国をつなぐ各界有識者の日韓親善と交流の場となっています。

平成25年度の助成証書授与式は、平成26年3月14日（金）17時から韓国文化院「ハンマダンホール」にて開催されました。

(2) 記念レセプション

本財団の助成証書授与式のあと、恒例となった記念レセプションが催されました。この宴席には過去に助成を受けた（財）韓哲文化財団当時の助成OBたちも参加して、日韓のテーマで繋がった各年度の助成OBの交流も行なわれています。記念レセプションの中に、「祝賀コンサート」を設けて、助成OBの音楽家による演奏があり、それぞれの芸術性を発表する場にもなっております。

平成25年度の記念レセプションは、平成26年3月14日（金）18時30分から韓国文化院「ハンマダンホール」と同院「ホワイエ」にて開催されました。